

安全教育



第40号

平成31年
2月25日発行
発行責任者
横田 竜一

一般財団法人 横浜市安全教育振興会
〒231-0014 横浜市中区常盤町3-25 サンビル7階 電話 045-662-7835 FAX 045-662-9831
メールアドレス：info@anshinkai.or.jp ホームページ：http://anshinkai.or.jp/

まち全体で子どもを育む教育の推進

横浜市長
林 文子



日頃より、横浜の子どもたち一人ひとりの健やかな成長のために、安全教育の普及・振興、事故防止等にご尽力いただき、誠にありがとうございます。横浜市安全教育振興会の皆様による、安全教室をはじめとする普及啓発活動や共済事業など数々の事業は、児童・生徒たちの健全育成の“支え”です。日々のご努力に改めて深く敬意を表し、感謝申し上げます。

近年、子どもたちを取り巻く社会の状況がめまぐるしく変化するなかで、関係者がこれまで以上に連携し、子どもたちをしっかりと見守り育んでいく必要があると実感しております。昨年9月には、私が大切にしている教育に対する考えを「横浜市教育大綱」としてまとめ、重点方針の一つ目に「まち全体で子どもを育む教育の推進」を掲げています。家庭・地域・学校が子どもの成長に向けた目標を共有し、連携・協働して子どもの成長を支えることを謳っており、横浜市安全教育振興会の皆様にも、今後もますますご活躍いただきたいと願っております。

中でも、昨年のお阪北部地震や西日本豪雨、台風21号、北海道胆振東部地震等、全国各地で大規模な自然災害が相次ぐなかで、皆様による防災・安全教育の取組は、重要性を増しています。横浜市としても、子どもたちの安全を守るために、平成23年の東日本大震災をはじめこれまでの災害から得た教訓を生かし、学校校舎の耐震化、発災時に地域防災拠点となる学校への備蓄の充実、小学校へのヘルメット設置など、あらゆる防災・減災対策に取り組んでいますが、こうした「公助」の取組に加えて、日頃から、家庭・地域・学校が連携して災害への意識を高め、「自助」「共助」の取組を進めていただくことが、何より重要です。各家庭における災害への備えはもとより、学校や地域の防災訓練への参加協力等、引き続きお力添えをお願いいたします。

また全国的にも、横浜市においても、児童虐待の対応

件数やいじめの認知件数は増加傾向にあり、子どもたち一人ひとりの大切な命を守るために周りの大人ができることが、改めて問われています。さらに、スマートフォン等の急速な普及に伴い、無料通話アプリやSNS（ソーシャル・ネットワーキングサービス）、オンラインゲームの利用が広がり、長時間利用による生活習慣の乱れや不適切な利用によるいわゆる「ネット依存」、ネット詐欺・不正請求等の「ネット被害」、SNSによるトラブル等、情報化の進展に伴う新たな問題が、子どもにも生じています。学校と家庭が協力し、子どもの情報モラル・マナーを育てていくことが、急務です。

子どもは、横浜の未来を創る、社会の希望です。横浜の子ども一人ひとりが幸せに生き、社会で活躍することができるよう、まち全体でしっかりと育んでいきたいと思ひます。

さて本年は、横浜の発展の契機となった開港から160年の節目の年であり、国際的なビッグイベントが、市内で相次いで開催される予定です。3度目の横浜開催となる「アフリカ開発会議」は8月に予定されており、市内小中学校では既に、アフリカの文化を学ぶ「一校一国」が進められています。また9月には、世界の強豪国が一堂に会する「ラグビーワールドカップ2019™」が開幕し、市内では決勝戦をはじめ7試合が行われます。来年の「東京2020オリンピック・パラリンピック」も見据え、横浜の子どもたちが世界へと視野を広げ、理解と交流を深める機会となるよう、取り組んでまいります。皆様にもご理解とご支援を、よろしくお願ひいたします。

むすびになりましたが、子どもの安全と健やかな成長のために、関係の皆様のご今後より一層のご活躍、横浜市安全教育振興会のますますのご発展を、心よりお祈り申し上げます。

〈調査研究委託事業〉

地域とともに考える防災

1 はじめに

毎年日本各地で様々な自然災害が発生している中、今年度は尊い命が失われる大きな災害が続いた年でした。6月に大阪では震度6弱の地震が発生し、その直後には西日本の広範囲での豪雨災害に見舞われました。9月には西日本から北陸地方に抜けた台風21号の大きな被害、直後には北海道で震度7という大地震が発生し、今もなお、避難生活を続けている人がいます。心よりお見舞い申し上げます。

自分たちの街に大災害がいつ起こるかわからない中、災害が発生した場合、中学生には地域から大きな期待が寄せられています。そのためにも、日頃から防災についての意識を高め、いざというときに活躍できるようにすることが求められています。

2 学校の現状

学区は横浜駅にも近く、緑の多い丘陵一帯が学区になっています。平成31年で創立66年という歴史があり、地域やPTAは学校にとっても協力的です。学校として特に力を入れているのが、地域学習です。本校の学校教育目標の一つとして「地域に学び、地域とともに成長する態度を育みます」と示されています。

伝統的に地域との結びつきが強く、各町内会の役員の方を招いての地区別生徒会を開催したり、各地域の夏祭りに生徒が参加し、松中ソーランを披露したりするなど、生徒が自分の住む地域の方々と交流する場を意図的に設けています。職場体験等も地域で積極的に受け入れていただいています。また、小中一貫ブロックでの学校運営協議会を設置しており、小中合同での授業研究をはじめとした連携ができています。

3 MTM(松中タウンミーティング)の取組

MTM(松中タウンミーティング)という行事が20年近く続いています。これは、学区内の地域を16グループに分け、その地域に住んでいる生徒と地域の町内



会・自治会長をはじめとした役員の皆様、そして、その地域にお住いのPTA校外委員がテーマに沿って話し合いを進める取組です。テーマは、「防災」「防犯」「福祉」という3つのテーマを3年周期で実施し、地域や保護者の皆様と懇談しながら、「中学生が地域に貢献できること」を中心に協議しています。

平成28年度のMTMでは「地域と共に考える防災について」をテーマに実施しました。

地域の皆様との協議では、各地域での防災拠点や一時避難場所の確認を行ったうえで、大きな災害が発生した場合に中学生としてできることを自分たちで付箋に記入し



て、模造紙に張り付けながら協議を行いました。地域の方からは「中学生に期待すること」等の意見が出され、16ブロックそれぞれで真剣な話し合いが行われました。

特に、自分の命を自分で守る意識を高めることやひとり住まいのお年寄りの情報を共有できるようにすることなど、日ごろから顔の見える関係づくりの大切さなどを確認することができました。

～ 松中タウンミーティング・学校保健委員会を通して ～

横浜市立松本中学校

4 委員会活動での取組

平成28年のMTMの取組を受けて、いつ起こるかかわからない災害に、日ごろから備えておくことへの意識を高めるために、平成29年度、平成30年度と、生徒会保健委員会で「防災について～中学生の自分にできること～」というテーマで取り組んでいます。

平成29年度は、「災害や防災について知ること」「日常の備えが大切である」という意識を高めるために、保健委員の生徒が「横浜市民防災センター」に出向き、様々な体験学習を行いました。

11月の学校保健委員会で、「横浜市民防災センターでの体験の紹介と、そこで学んだことを体育館で全校生徒に発表しました。また、防災グッズをビンゴゲームにすることで、生徒の防災に対する意識を高める工夫を行いました。

平成30年度は、「訓練や体験により、自らの安全を確保できる」「災害時に中学生でもできることがある」というテーマで活動を行いました。

そのため、神奈川区役所の防災担当の方及び本校を地域防災拠点としている町内会・自治会の役員の皆様に相



談したところ、快くご協力をいただくことができました。文化祭当日は「松本中学校地域防災拠点運営委員」の7名と神奈川区役所総務課防災担当者の2名に来校いただき、昇降口前ホールに「防災ブース」を設けて、防災備蓄庫の中身を展示し、熱心に解説してくださいました。また、ピロティーでは、エンジン発電機を始動する体験を実施し、生徒たちは興味深く解説を聞いたり、発電機を操作したりすることができました。



11月23日に体育館で行われた学校保健委員会発表会では、「①防災についてのアンケート報告 ②防災クイズ ③福島で学習したこと ④区役所・地域の方からのメッセージ」など、今年

度の保健委員会で取り組んだ内容を全校生徒に発表しました。

③の「福島で学習したこと」では、本校の教員が、研修で福島の被災地を訪問した時に見たことや講演をいただいた内容を報告しました。



防災に対する意識の事前アンケートは、昨年度よりも意識が高まっているものの、「災害に対する備え」や「家族での話し合い」がまだまだ不足していることが分かりました。校長の講評では「保健委員会の取組を生かして、防災に対する意識が高まっている本日、家族で話し合ってください」という旨の話がありました。

5 まとめと今後の課題

災害発生時には、中学生は地域にとって頼もしい存在となります。東日本大震災の時に、釜石市では中学生が近くの小学生や保育園の子どもたちの手を引いて高台に避難し、多くの命が救われたといえます。この「釜石の奇跡」と呼ばれた行動は、決して奇跡ではなく、日ごろの防災教育のたまものであるといわれています。

本校の生徒がかかわる地域防災拠点は、本校を含めて6か所に分かれます。そのため、大災害が発生した場合には、中学生はそれぞれの地域で、地域の皆様と協力しながら、自分ができることを考え、判断して行動することが求められます。

いつ、どこで発生するかかわからない様々な災害に対して、日ごろからの十分な備えと、いざというときの冷静な判断や行動ができるようにすることが、最も大切な命を救うことにつながります。

そのためにも、今後も防災意識を高める活動に継続して取り組んでまいります。

横浜市PTA創立70周年 記念式典・記念講演・祝賀会

2019年 2月1日(金)

記念式典 13時～14時

記念講演 14時30分～16時

関内ホール大ホール

祝賀会

18時30分～20時30分

ロイヤルホールヨコハマ

「発足70年の今、将来のPTA活動を見据えて」



この度、横浜市PTAでは創立70周年を迎え、2月1日に、記念式典・記念講演・祝賀会を開催いたしました。

横浜市立学校のPTA会員のみなさま、また横浜市教育委員会をはじめとするPTAにご協力いただいている各団体のみなさま、約700名という多くの方々にご参加いただき開催いたしました。

記念式典では、横浜市副市長にもご臨席いただきご祝辞をいただきました。また、記念講演では、タレントのつるの剛士氏をお招きし、「我が子を幸せな人に育てる方法・つるの流子育てとは」というテーマでお話いただきました。つるの氏は、現在藤沢市に在住で、二男三女・5人のお子様のお父様であり、芸能活動中に育休を取られたことでも有名で、子どもに対する思いを熱く語っていただきました。

夕刻からの祝賀会では、横浜市教育委員会教育長のご祝辞から始まり、各区部P連の日頃の活動をフォトムービーとして上映させていただきました。短い時間ではありましたが、たくさんのみなさまと交流を深めていただく事ができたかと思えます。

また、〈70周年記念誌〉を作成いたしました。PTAのあゆみとともに、横浜市立学校全校509校の紹介も掲載し、横浜らしい一冊となりました。記念誌作成にあたっては横浜市安全教育振興会のご協力もいただきました。

さて、横浜市PTA連絡協議会では「おとなも育とうこ

どもと共に～PTAで築く信頼・規範・ネットワーク～」のスローガンのもとに、横浜の子どもたちの明るい未来づくりのために活動、事業を行っております。子どもたちのためのPTA活動が、我々おとなを成長させて、子どもたちに還元されます。PTA活動をされているみなさまはそれを実感されていることと思います。それは昔も70周年を迎える今も変わらないPTA活動の素晴らしいところだと思います。

しかしながら、現代社会の変化に伴い、PTAの存在意義が大きく問われ、PTAのあり方について様々な議論がなされています。また、情報伝達手段の多様化により、人と人との繋がり方が変わってきました。新しい方法も積極的に取り入れることもこれからのPTA活動では必須になりますが、その上で、昔ながらの「フェイス・トゥ・フェイス」な人と人とのつながりも大事にしていきたいと思えます。

近年、未曾有の自然災害も各地で発生し、それらに対する危機管理も今後一層重要となり、家庭・学校・地域が更に絆を強め、命を守る活動も必要と考えられます。また、昨今のいじめ問題等、多様な事案についても、〈人と人との絆〉が解決のキーポイントとなると確信しております。〈人と人との絆〉がしっかりとできれば安全で暮らしやすい社会が実現できると思えます。

また、『ラグビーワールドカップ2019』『東京2020オリンピック・パラリンピック』がすぐ目の前に控えており、スポーツを通じて、子どもたちの豊かな感性や創造力を育み、子どもたちひとりひとりの夢や希望の源となると思えます。

横浜市PTA連絡協議会では、未来を担う子どもたちのために、そしてこれからの変化して行く未来を見据えて、これからも楽しくPTA活動を行うための情報を発信してまいります。



〈団体助成事業〉

プログラミングは 21 世紀の読み書きそろばん ~ (一社)横浜すばいす『プログラミング教育支援事業』~

C Change, Creativity, Computer
Collaboration, Chance, Challenge, Computer には **夢** がある
識プログラミング率世界一に!

未来=子ども、子どもたちの未来は

「来る2020年度は小学校のプログラミング必修化。」「プログラミング教育」という言葉が耳に飛び込んできた3年前に私たちは小学校でプログラミング指導を始め、現在述べ人数6000人以上の市内学校の小中学生、教職員に「プログラミングとプログラミング的思考」について支援を提供しています。



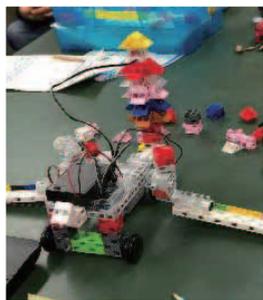
「ロボットって何?」「コンピュータって何?」「プログラミングって何?」

この数年間で急速に変化している私たちを取り巻くICTの世界。数年後には現在の職業の半数近くがロボットに取って代わられるだろうと言われています。確実に今までの大人が経験したことがない未来を歩む子どもたちに「プログラミング体験」で夢を届けたいと活動をしています。

今の自動車は車輪の上に乗ったコンピュータ

小学校でコイルの巻き数と電磁石の強さの関係を考えさせる実験があり、さらに中学校ではコイルを巻いてモーターの原理を学ぶ実験がありました。電磁石とモーターは同じ仕組みで全く逆の働きをすることに感動した子どもたちがモノづくりの専門家になっていった例をたくさん見してきました。

自動車が動きながら電気を作り、その電気で自ら動き、他に供給もできるという、まるで永久機関のような電気自動車が近いうちに実用化されると発表されました。この自動車は上記のコイルで動く基本を持ちながらモーターをコンピュータが制御するロボット、自動車は車輪の上に乗ったコンピュータといえます。

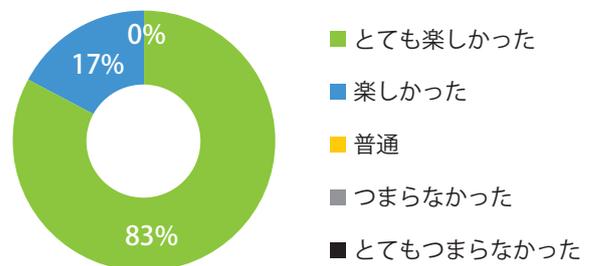


日本トップの自動車会社と通信大手の企業が合弁会社を作るという最近の報道も、自動車とコンピュータとの関係を考えれば明白です。自動車だけでなく自販機、改札口、掃除機、台所の電気製品等私たちの周りはずでにロボット(コンピュータで制御された機器)があふれています。

学校における子どもたちとプログラミング学習

ただでさえ多忙な学校。そこにさらに加わるプログラミング教育。これ以上先生たちがご苦労しなくても済む方法はないだろうかと考えました。コンピュータを使用してのプログラミングは準備から大変と考え、支援することにしました。

Q1. 実際にプログラミングをして楽しかったか?



企業から機材等の提供を受け、若者(情報科学専門学校)のボランティアを活用し機材と指導法、指導者をセットにして各学校へ伺います。「ロボットプログラミング体験」はグラフからわかるように子どもたちと先生方から圧倒的な高評価を得ています。

学校、ITのお互いの良さを子ども(未来)のために

他とのCollaborationsやProgramingの必要性を実感し、企業人から教員になったK先生は学年の先生方と共に「プログラミングとプログラミング的思考」を指導に生かしています。

自分の頭で考え、未来社会の担い手であることを実感し、誰かの役に立つために変わり=Change、創り=Creativity、友達や家族、地域、モノや学びとのCollaborationで未来をよりよい社会にするために挑戦=Challengeする子どもたちの姿が「プログラミング体験」をきっかけにできていますと報告がありました。

大切な子どもたちの未来と安振会

プログラミングがきっかけとなって未来への学び、生きる力に繋がる授業をご支援いただいている「横浜市安全教育振興会」に心から感謝申し上げます。

※(一社)横浜すばいす:学校退職者等支援者を中心とした学校の活動を支援するために活動している団体。HP:y-spyce.co.jp

〈団体助成事業〉



〈はじめに〉

個別支援学級に在籍している子どもたちや保護者への支援として、何かできることはないかと中村一雄先生が始められた「野島クリスマスキャンプ」も第23回を迎えました。当初は、子どもたちに保護者とはなれた一泊二日の生活体験の場を提供し、楽しみながら成長を図ることをねらっていましたが、回を重ねる中で、取組も時代に合わせて変化してきています。

今年は、12月2日にふれあいの会（事前説明会＆顔合わせのレクタイム）、12月15～16日に野島クリスマスキャンプ2018を開催しました。



〈クリスマスキャンプがねらうこと〉

○子どもの成長

初めて出会う友達やボランティアさんと一緒に活動し、協力したり、役割を担ったりすることで、子どもたちの成長を育みます。毎年参加して下さるご家庭もあって、子どもの成長を保護者の方と一緒に喜べるのも、実行委員会としてとても嬉しいことです。

○ボランティアの育成

青少年にボランティアの場を提供することで、ボランティア活動への推進を図っています。ふれあいの会で、子どもたちと顔合わせをする前に「障害児理解研修」を受け、子どもたちへの理解とボランティアとしての心構えを学びます。当日の運営でも、何回も参加して下さっているボランティアさんが初参加のボランティアさんをサポートできるような体制づくりを実行委員会でも考えています。

また、茶道やブラスバンド等、高校生が部活動で身に付けた力を発揮しながらボランティア活動を体験する年もありました。

○保護者の交流

現在、保護者の方も一緒に参加しています。子どもたちは、ボランティアさんと一緒に活動するため、保護者の方は保護者同士で活動します。お父さんもお母さんも一緒になってケーキ作りをしたり、子どもたちの育ちや進路等について情報交換をする交流タイムを楽しんだりしています。

〈2018の野島クリスマスキャンプの活動〉

○美味しいクリスマスディナー

毎年(株)鳥勝さんからチキンを提供していただいておりますが、これがおいしくて大好評。クリスマスキャンプのためだけに発注してくださっているオリジナルチキンだと初めて知りました。

○クリスマスキャンドル

#0(シャープゼロ)の皆さんをお招きしてのコンサート。参加型コンサートは、とてもとても盛り上がりました。みんな、歌もダンスもバッチリでした。

○レク活動「めざせミニサンタさん！」

ダーツやリレー等々のコーナーを回ってゲットしたシールで、お父さんお母さんへのプレゼント「ランチョンマット」を作りました。



○ボランティアさんと保護者の交流会

子ども達が寝静まった後、ジュースとお菓子を頬張りながら、保護者の方にボランティアさんが子どもたちの様子を伝えました。保護者の方からのお話にも、ボランティアさんが学ぶこともいっぱいありました。

〈クリスマスキャンプの応援団〉

この取組を多くの方が応援してくれていることも、第23回まで続けられていることの大きな要因です。今年も、(一財)横浜市安全教育振興会様から助成金をいただきました。特に今年も、豊田則夫副理事長にご挨拶をいただくことができました。また、(公財)よこはまユース、横浜市教育委員会、横浜市立小学校長会、横浜市立中学校長会、横浜市PTA連絡協議会、(株)鳥勝様、海をつくる会の皆様からも応援をいただきました。心より感謝申し上げます。

〈おわりに〉

閉会式で、中学三年生のお父様の「最初は、父が勝手に申し込み、本人はいやいやの参加でしたが、1回参加したらとても楽しくて毎年お世話になりました。みんなの前で自己紹介もできなかった息子が、終わりの挨拶をしっかりとできるように成長を感じています。これからの子どもたちのために、クリスマスキャンプを継続させてほしいと思います。」という言葉に胸がいっぱいになりました。これからも人とのつながりを大事に取組んでいきたいと思っています。

〈安振会年間事業〉

第32回「健康と安全」ポスター展

展示期間：平成30年12月18日（火）～
平成30年12月23日（日）

展示会場：横浜情報文化センター

表彰式会場：横浜情報文化ホール

応募点数：503点

受賞作品：特別賞14点 入選15点 佳作16点

審査委員

横浜市立中学校美術研究会会長

長谷川 眞介 先生（横浜市立神奈川中学校長）

横浜市小学校図画工作教育研究会会長

江口 和良 先生（横浜市立美しが丘西小学校長）



平成30年度安全教室

日本赤十字社の指導員による 救急救命法教室

第1回	7月12日(木)	15名
第2回	9月 7日(金)	17名
第3回	9月28日(金)	16名
第4回	10月19日(金)	16名
第5回	11月15日(木)	13名
第6回	11月29日(木)	14名
第7回	1月18日(金)	15名

会場：（一財）横浜市安全教育振興会 事務局

時間：9：30～11：30

内容：心肺蘇生法、「AED」の取扱い、止血法 等



横浜市民防災センターの職員による 講習と体験ツアー

第1回	7月10日(火)	19名
第2回	9月 5日(水)	19名
第3回	10月23日(火)	20名
第4回	11月 9日(金)	21名
第5回	1月16日(水)	23名

会場：横浜市民防災センター

時間：10：20～12：00

内容：防災講和、地震等災害体験、
減災トレーニング 等



役員コンプライアンス 研修会

7月19日（木）

会場：（一財）横浜市安全教育振興会 会議室

文科省の担当の方に指導していただきました。

第32回「健康と安全」ポスター展 受賞作品



横浜市長賞



しっかり食べよう けんこうな体
汐入小学校3年 岩田 悠香



横浜市長賞



毎朝食べて元気な1日を
左近山中学校2年 市川 夏衣



横浜市教育委員会
教育長賞



スマホじゃなくてボクを見て!
菅田小学校5年 橋見 優奈



横浜市教育委員会
教育長賞



しっかり確認 命の合図
左近山中学校3年 大古田 玲奈



横浜市教育委員会
教育委員会賞



みどりいっぱい きれいなちきゅう
金沢小学校2年 永島 聡士



横浜市教育委員会
教育委員会賞



命いっぱいの花を咲かせよう
仲尾台中学校3年 黒澤 ハナ



一般財団法人 横浜市安全教育振興会
理事長賞



明日の笑顔を守るために
下末吉小学校6年 加藤 光紗



一般財団法人 横浜市安全教育振興会
理事長賞



スマホより周りを見よう
左近山中学校3年 大久保 心実



横浜市PTA連絡協議会
会長賞



そろうとたのしい
間門小学校2年 村松 芽衣



横浜市PTA連絡協議会
会長賞



守ろう家族の絆
笹下中学校3年 加藤 綾菜



神奈川新聞社賞



生活リズムを大切に
大鳥小学校6年 加藤 十和子



神奈川新聞社賞



適度な睡眠で良い一日を
左近山中学校2年 藤川 ひより



審査員特別賞



歩きスマホに注意!!
戸部小学校4年 中村 心虹



審査員特別賞



みんなで食べれば心も体も健康
笹下中学校2年 水沼 由衣

平成30年度 加入状況

校種	賛助会員数	世帯数
小学校	337	142,229
中学校	136	67,020
高等学校	5	4,242
特別支援学校	12	1,454
総計	490	214,945

(小学校には、横浜国大附属横浜小が含まれる)

平成30年度 評議員名簿

役職名	氏名	備考
評議員	荒巻 正則	市P連役員(副会長)
評議員	大槻 繁美	学識経験者 (公財)よこはまユース理事総務部長)
評議員	金澤 眞澄	横浜市立中学校長会代表 (総務)
評議員	工藤 春治	学識経験者 (横浜市子ども会連絡協議会会長)
評議員	栗原 聡	学識経験者 (NPO法人ハマのトウダイ理事長)
評議員	七海 雷児	市P連役員(副会長)
評議員	堀 英雄	学識経験者 (神奈川県立高等学校安振会評議員)
評議員	山岸 秀之	横浜市教育委員会代表(総務課長)

平成30年度役員・審査委員名簿

役職名	氏名	備考	
理事長	横田 竜一	学識経験者	○
副理事長	遠藤志津江	学識経験者	○
副理事長	豊田 則夫	学識経験者	○
専務理事	山元 泰弘	安振会事務局長	○
常務理事	竹本 靖代	学識経験者	○
理事	森田 真	学識経験者	
理事	三枝木鉄朗	学識経験者	
理事	青木俊太郎	学識経験者	
理事	鈴木 秀高	学識経験者	
理事	生田 麻実	学識経験者	
理事	山下久美子	学識経験者	
理事	奈良輪孝雄	小学校長会代表(副会長)	○
理事	矢田 弘	中学校長会代表(副会長)	○
理事	佐塚 丈彦	特別支援学校長会代表(理事)	
理事	海上 良太	市P連代表(会長)	○
理事	樋口眞砂子	市P連代表(副会長)	○
理事	菅野 陽子	市P連代表(会計)	
監事	柳澤 潤	小学校長会代表(副会長)	
監事	青木 潤	市P連代表(書記)	

○印は審査員兼務

審査委員	紺野 勉	横浜市医師会推薦
審査委員	山崎 具基	横浜市医師会推薦
審査委員	神保 裕紀	横浜市歯科医師会推薦

平成30年度 上期 供花料等給付一覧表

(平成30年4月1日～平成30年9月21日) (単位 円)

給付別種・事由	対象	給付件数	給付額
(1)児童生徒供花料	児童	2	60,000
	生徒	2	60,000
	小学校	32	960,000
	中学校	22	660,000
(2)保護者供花料	高校・特別支援	2	60,000
	(3)教職員供花料	0	0
(4)証明書代等		30	53,500
合計		90	1,853,500

費目	件数	金額
(1)振込手数料	87	36,504
(2)その他の手数料	3	1,620
合計	90	38,124
支払総額		1,891,624

平成30年度 上期 共済見舞金等給付一覧表

(平成30年4月1日～平成30年9月21日) (単位 円)

給付別種・事由	対象	給付件数	給付額	
1 児童生徒事故見舞金	(1)傷害事故	児童	983	12,144,024
		生徒	86	1,107,640
	(2)障害	児童	1	82,420
		生徒	0	0
	(3)交通事故	児童	35	112,600
		生徒	5	17,000
小計		1,110	13,463,684	
2 児童生徒弔慰金	(1)学校管理下外事故死	児童	0	0
		生徒	1	500,000
	(2)交通事故死	児童	1	200,000
		生徒	0	0
	(3)登下校中の交通事故死	児童	0	0
		生徒	0	0
小計		2	700,000	
3 PTA主催共催事故見舞金	(1)傷害事故		8	176,960
	(2)障害		0	0
	(3)交通事故		0	0
	(4)事故死		0	0
	(5)往復途次の交通事故死		0	0
	(6)病死等		0	0
小計		8	176,960	
4 学校特別協力見舞金	(1)特別負傷見舞金		0	0
	(2)特別交通事故見舞金		0	0
	(3)死亡弔慰金		0	0
	小計		0	0
合計		1,120	14,340,644	

費目	件数	金額
(1)振込手数料	876	275,724
(2)その他の手数料	3	972
合計	879	276,696
支払総額		14,617,340

安全教育推進団体に対する助成

(平成31年1月現在)

申請のあった単位PTAに対する助成	1校4万円(上限) 350校	13,896,127
区・部会PTA講演会研修会等助成		3,351,000
横浜市PTA連絡協議会事業助成		3,000,000
横浜市立小学校長会「専門研究事業」		300,000
第35回横浜港カッターレース		100,000
第16回学校給食展示会		200,000
第23回野島クリスマスキャンプ2018		200,000
第16回横浜市立小学校ラグビー交流会		150,000
(一社) 横浜勤労青少年福祉協会「夏休みお楽しみ教室」		100,000
横浜市立中学校長会指導部・研修部		300,000
(一社) 横浜すばいす プログラミング教育支援事業		200,000
enjoy istかながわ周知拡散プロジェクト		112,000
横浜市健民少年団「夏期キャンプ訓練会」		50,000
よこはま学校食育財団「食育推進事業親子料理教室」		40,000
青葉区小中高生ミュージカル		50,000
第6回yokohama学校地域コーディネーター・フォーラム		30,000
特別支援教育の推進と理解啓発専門研究事業		300,000
未来へつなぐつづきゆめ駅伝2018		300,000
磯子区スポーツ交流会小中学校インディアカ大会		50,000

平成30年度 区部会講演会研修会一覧

区部名	開催日	事業名	会場	講師
鶴見	12/2(日)	映画上映「ぼくはうみがみたくなりました」	鶴見公会堂	山下 久仁明
神奈川	12/9(日)	講演会「親子で楽しく!防災ワークショップ ~大地震から子どもたちを守るために~」	横浜市民防災センター	大木 聖子
西	2/22(金)	講演会「子ども×家庭×学校×地域=幸せ」 ~みんなが幸せになるための4つの因子~ 講演会「運動=形×リズム」	西公会堂	前野 隆司 安藤 匡哉
中	10/16(火)	スポーツ文化交流会「経路ストレッチ&肩甲骨ヨガ」	山元小学校体育館	金原 美帆 木津 公乃
	1/21(月)	講演会「子ども社会の理解と家族のかかわり」	開港記念会館講堂	藤近 賢
南	2/9(土)	講演会「おいしい講演会」横浜の「食」から未来を考える	南公会堂	今平 茂
保土ヶ谷	11/30(金)	講演会「思春期・子育て ~脳教育からみた子どもの関わり方 子どもの心に寄り添うために~」	保土ヶ谷公会堂	田中 ゆかり
旭	11/27(火)	講演会「忍びの心を現代に生かす」	旭公会堂	池辺 柔兵衛
磯子	1/25(金)	講演会「田中照代の私に力をくれたもの」	磯子公会堂	田中 照代
金沢	11/7(水)	全体研修会「子どもの理解と関わり方~発達特性を知ろう~」	関東学院大学	青戸 泰子
港北	1/11(金)	講演会「今、子どもたちに伝えたい性教育 ~いのちと愛と防犯 親から伝えるメッセージ~」	港北公会堂	のじま なみ
緑	1/18(金)	講演会「壁は自分でつくっている 片腕でも伝えられるものがそこにある」	みどりアートパーク	湯上 輝彦
青葉	11/29(木)	講演会「子どもたちの悩みを知っていますか? ~思春期相談現場から伝えたいこと~」	青葉公会堂	千田 陽子
都筑	1/23(水)	講演会「FIGHT&LOVE(力強さと優しさ) ~子育て・子どもの命を守る地域防災・暮らしを語る~」	都筑公会堂	蝶野 正洋
戸塚	12/7(金)	講演会「もしも地震が起こったら~保護者・学校にできること」	戸塚公会堂	国崎 信江
栄	11/26(月)	講演会「子どもと親への応援歌~私の生きる目的とは~」	栄公会堂	加藤 彰彦
泉	11/10(土)	講演会「怒りの感情と上手に付き合う~イライラ3ステップ講座~」	泉公会堂	渡辺 あつ子
瀬谷	11/27(火)	映画上映・講演会「みんなの学校」	瀬谷公会堂	木村 泰子
特別支援	1/18(金)	講演会「障害児の表現活動 一障害とアーツを通じて~」	あーすぶらざ	新井 鷗子

平成30年度 修学奨励金の給付

小学校	192人	30,000
中学校	86人	40,000
高等学校	10人	60,000
特別支援学校	24人	40,000
計	312人	10,760,000円

平成30年度 賠償事故状況概要 (12月末日現在)

総数	校内	校外	対人	対物			
				自動車	ガラス	メガネ	その他
36	9	27	9	9	6	4	8
ガラス破損の内訳				自動車損傷の原因			
校内 3件		校外 0件		自転車	ポール	石	その他
小学校	中学校	小学校	中学校	7件	0件	1件	1件
1件	2件	0件	0件				

※高等学校及び特別支援学校はなし

自転車事故の内訳		
対車	対人	その他
7件	3件	1件



安全教育団体に対する助成

各団体における活動の一コマ

横浜市PTA連絡協議会

第35回よこはまファミリー写生大会

- 実施日▶平成30年4月22日(日)
- 展覧会▶平成30年6月8日(金)～6月11日(月)
- 表彰式▶平成30年6月10日(日)
- 場 所▶新横浜公園(写生大会) 横浜市民ギャラリー(展覧会)
横浜市健康福祉総合センターホール(表彰式)
- 参加者▶12,000名

今年は、新横浜公園に会場を変更して開催いたしました。当日は4月にもかかわらず気温が30度を超える真夏日となり、天候にも恵まれ、例年通り多くの参加者が朝早くから新横浜公園にいらっしやいました。巨大な日産スタジアムや、緑豊かな野原や虫を繊細に観察して描いたりと様々な作品が完成していました。子ども達の想像力は大いに発揮され、素敵な一日を過ごされたことと思います。第36回大会は、横浜市PTA創立70周年記念事業の一つとして、更に充実した事業となるよう取り組んで参ります。



区・部講演会・研修会助成

神奈川区PTA連絡協議会<教育環境の変化に対応する特別委員会>

- 事業名▶「親子で楽しく!防災ワークショップ ～大地震から子どもたちを守るために～」
- 実施日▶平成30年12月9日(日)

子育て世代への防災意識を高めることを目的に慶應義塾大学大木聖子准教授を講師に迎え206名の参加者と体操やクイズ、ペットボトルランタン作成のワークショップなどの内容で研修を実施しました。神奈川区役所と協働で作成した防災ガイド『大地震から子どもたちを守るために』も活用し、災害から子どもを守るために自らが実施すべきことを参加者自身が確認できた時間となりました。



単P事業助成

横浜市立朝比奈小学校

- 事業名▶「朝比奈ふれあいフェスティバル:セネガル文化紹介」
- 実施日▶平成30年10月22日(月)

朝比奈小学校では子どもたちのキャリア教育として毎年文化事業を開催しています。今年度は外部のNPO団体のお力をお借りし、体育館でセネガル文化紹介を行いました。皆で同じ器から手で食べる食文化に触れ、手を洗おう会による[セネガルの紙芝居]と[手洗いレクチャー]で手洗いの大切さを学びました。後半はサバール(セネガル太鼓)・ダンス・歌のリズミカルで陽気な芸術文化から刺激をもらいました。



単P事業助成

横浜市立若葉台中学校

- 事業名▶「孫・子・老の日」
- 実施日▶平成30年9月22日(土)

日頃、戸外に出る機会の少ない老人福祉施設や若葉台近隣にお住まいのお年寄りを招き、孫の役(若葉台中学校の生徒たち)、子の役(若葉台中学校のPTA保護者)、老の役(若葉台近隣の老人福祉施設等に住む方々)の3世代が1チームになり、若葉台の街に出て、その後、商店街で買物の手伝いや食事を一緒にします。

また、事前に孫(中学生)と子(PTA参加者)が車いすの扱い等を学び、安全かつ有意義に3世代の交流を促しています。

